

教育委員会定例会

1 開 会

2 報 告

報告第 8 号 教育委員会 7 月定例会の会議録について

3 議 案

議案第 3 7 号 令和 6 年度教育委員会 9 月補正予算の提案について

議案第 3 8 号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書の作成について

議案第 3 9 号 専決処分について（損害賠償の額を定めることについて）

4 その他

- (1) 桐生市臨海子ども会及び桐生市・日立市子ども会リーダー交歓研修会の実施結果について
- (2) 日立市二十歳の祝いの実施について

5 次回の教育委員会の日程について

令和 6 年 9 月 2 6 日（木） 午後 1 時 3 0 分から
日立市役所 3 0 4 ・ 3 0 5 号会議室

6 閉 会

教育委員会 7 月定例会の会議録について

教育委員会 7 月定例会の会議録について、別紙のとおり報告するものとする。

令和 6 年 8 月 2 9 日 提出

日 立 市 教 育 委 員 会
教 育 長 折 笠 修 平

教育委員会会議録（7月定例会）

日 時

令和6年7月25日（木）
午後1時30分から午後1時46分まで

場 所

日立市役所 304・305号会議室

出席委員

教育長	折笠 修平
教育長職務代理者	中村 雅利
委 員	朝日 華子
委 員	上村 由美
委 員	小野 智久

委員以外の出席者

教育部長	宮内 雅弘
理事	窪田 康德
総務課長	作山 直弘
総務課課長	高橋美奈子
学校施設課長	高瀬 稔
学務課長	北見 裕
学務課課長	富岡 道雄
学校再編課長	酒地 康彦
学校再編課課長	鈴木 康世
生涯学習課長	齋藤 広美
スポーツ振興課長	玉置 伸一
スポーツ振興課課長	市原 慎也
指導課長	青木 房子
指導課課長	佐川 正城
記念図書館長	鈴木 弘嗣
郷土博物館長	島崎 信彦
北部学校給食共同調理場長	根田 容子
教育研究所長	諸橋 正和
総務課課長補佐（兼）庶務係長	塙 智光
総務課課長補佐（兼）計画財務係長	西野 晃平
総務課係長	澤田 貴子
総務課主事	上遠野 宰

議 事

報 告

報告第 7 号 教育委員会 6 月定例会の会議録について

その他

- (1) 第 5 2 回桐生市・日立市子ども会リーダー交歓研修会について
- (2) 令和 6 年度教育課題調査研究事業の概要について

会 議 の 概 要

1 開 会

教 育 長 ただ今から、教育委員会 7 月定例会を開会します。

 本日は、傍聴者はありません。

2 報 告

報 告 第 7 号

教育委員会 6 月定例会の会議録について

教 育 長 まず、報告第 7 号について、御意見等はございませんか。

全 委 員 特にありません。

教 育 長 それでは、本件については、承認されました。

3 そ の 他

(1) 第 5 2 回桐生市・日立市子ども会リーダー交歓研修会について

教 育 長 続いて、その他に移ります。
 その他(1)について、生涯学習課長から説明をお願いします。

生涯学習課長 本市と国内親善都市である群馬県桐生市の子ども会と親善を図り、交流を深めるため、日立市子ども会育成連合会が毎年実施している事業でございます。

 8 月 3 日土曜日から 8 月 4 日日曜日の 1 泊 2 日で実施され、日立市からの参加者は小学校 5・6 年生の子ども会リーダー、中学生リーダー会員及び日立ヤングリーダーズクラブ員など、合わせて 39 人です。

 内容については、歓迎式典のほか、桐生市の子どもたちと一緒に八木節踊りの練習をした後、桐生八木節まつりに参加をいたします。

 また、夜は、施設に宿泊をして、親睦を深めてまいります。

 なお、宿泊先は群馬県桐生市青少年野外活動センターです。

委 員 参加人数が減少しているのので、参加できる対象条件を拡大することはできませんか。

生涯学習課長 日立市子ども会連合会に加入していない子どもたちにも枠を設

けることについては、今後の検討課題だと考えています。

桐生市では、子ども会を13地区に分けているようですが、地区の中には、子ども会がほとんどない地区もあるそうです。

ただ、市が共催で入る事業や祭りなどの事業には、子ども会の有無に関わらず、各地区の代表が呼びかけて、全ての子どもたちに参加の機会があるそうです。

今後、日立市でもそういった事例を参考にしながら、検討していく課題だと考えているところでございます。

(2) 令和6年度教育課題調査研究事業の概要について

教 育 長 次に、その他(2)について、教育研究所長から説明をお願いします。

教育研究所長 子どもが良い授業を受けることができるように進めているこの教育課題調査研究事業は、本研究所の大変重要な事業です。

研究主題を「問いから考える学習者主体の授業づくり—小学校段階のデジタル技術の活用を通して—」としました。

現在、研究員を17名に委嘱しており、学習指導案の作成や授業実践などについて研究を進めています。

私たち教育研究所所員も含め、研究員一同、質の高い授業研究を通して、学習者主体の学びを支援し、未来を拓く人材育成に貢献したいと考えております。

委 員 子どもが主体になるような学習に変えていくこととデジタル技術を活用することについては、簡単なことではないと思います。

先生方がデジタル技術をすぐ使えるようにするための研究をしていただきたいと思っています。

教育研究所長 現在の小学校の教科書につきましては、既にデジタル技術が埋め込まれた教科書の展開となっており、今後、更なるデジタル技術の展開も予想されます。

そのような状況に対応するためにも、今年度は、問いから考える学習者主体の授業に加え、様々なデジタル技術が埋め込まれた教科書を活かした学習指導を実践できるよう、テーマの方向付けを行ってまいりたいと考えております。

今後は、御意見も踏まえまして、事業を進めてまいりたいと考えています。

委 員 学校の負担も考慮し、担当の業務を減らすなど、配慮していただきたいと思います。

(3) その他

教 育 長 そのほか、案件はありますか。

記念図書館長 視聴覚センターの行事について御説明いたします。「夏休み親子映画会 with ひたちシネマスペシャル」についてでございます。

8月10日土曜日に、ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービーを上映いたします。本作品は、昨年発表されたシリーズ最新作であり、話題の人気作でもあります。

会場は、多賀市民会館ホールで行います。

なお、申込みについては、7月6日土曜日から開始いたしましたが、申込開始日で、満席となり、現在はキャンセル待ちとなっております。

4 次回の教育委員会の日程について

教 育 長 次回の教育委員会定例会の日程について、総務課長からお願いします。

総 務 課 長 令和6年8月29日（木）午後2時30分から、日立市役所3階304・305号会議室で開催予定です。

5 閉 会

教 育 長 以上をもちまして、教育委員会7月定例会を終了いたします。

以 上

令和 6 年度教育委員会 9 月補正予算の提案について

令和 6 年度教育委員会 9 月補正予算について、別紙のとおり提案するものとする。

令和 6 年 8 月 29 日提出

日 立 市 教 育 委 員 会
教 育 長 折 笠 修 平

(提案説明)

令和 6 年度教育委員会 9 月補正予算について、提案するものであります。

令和6年度教育委員会9月補正予算額

1 歳入歳出予算

(単位 千円)

区分	款	項	補正前	補正額	補正後		
歳入	13	分担金及び負担金	1 負担金	61,400		61,400	
	14	使用料及び手数料	1 使用料	65,926		65,926	
	15	国庫支出金		357,052	0	357,052	
			1	国庫負担金	0		0
			2	国庫補助金	357,052		357,052
	16	県支出金		200,167	337	200,504	
			2	県補助金	194,917	337	195,254
			3	委託金	5,250		5,250
	17	財産収入	1 財産運用収入	28		28	
	18	寄附金	1 寄附金	0	50	50	
	19	繰入金	1 基金繰入金	20,998		20,998	
	21	諸収入	4 雑収入	85,940		85,940	
22	市債	1 市債	1,446,300		1,446,300		
	合計		2,237,811	387	2,238,198		
歳出	2	総務費	1 総務管理費	0	8,165	8,165	
	3	民生費	3 児童福祉費	389,152		389,152	
	10	教育費	1	教育総務費	1,450,870	729	1,451,599
			2	小学校費	997,723		997,723
			3	中学校費	678,127		678,127
			4	幼稚園費	-		-
			5	社会教育費	1,080,413		1,080,413
			6	保健体育費	3,933,388		3,933,388
	合計		8,529,673	8,894	8,538,567		

令和6年度 教育委員会 9月補正予算の内訳について

1 歳入歳出予算

(単位 千円)

No.	担当課	目	事業名等	補正額	補正内容
総務費					
1	生涯学習課	諸費	市税等過誤納還付金	8,165	令和5年度(国庫補助金)子ども・子育て支援交付金(7,813)及び保育対策総合支援事業費補助金(352)の精算に伴う超過交付分の返還費用を計上する。 ※放課後児童クラブ分
教育費					
2	教育総務課	教育指導費	教育振興経費	50	未来をひらく子ども教育基金積立金 市民からの寄附金を、未来をひらく子ども教育基金に積み立てる。
3		【関連歳入】	寄附金	50	教育振興事業寄附金 大みか小創立30周年記念事業タイムカプセル実行委員会 飯田 征子 氏
4	教育研究所	教育研究費	教育相談事業費	679	会計年度任用職員(少人数指導教員(不登校学習支援))に係る人件費の増
5		【関連歳入】	県支出金	337	校内フリースクール設置促進事業費補助
歳入合計				387	
歳出合計				8,894	

教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点
検及び評価の結果に関する報告書の作成について

教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
の結果に関する報告書について、別冊のとおり作成するものとする。

令和 6 年 8 月 29 日 提出

日 立 市 教 育 委 員 会
教 育 長 折 笠 修 平

(提案説明)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書を作成するものであります。

令和6年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び 評価の結果について

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、日立市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検及び評価し、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにし効果的な教育行政の推進に資するとともに、その結果を公表し市民への説明責任を果たしていくことを目的とする。

2 対象

令和5年度に、教育委員会が管理及び執行した事務を点検及び評価の対象とした。

3 実施方法

(1) 内部評価

日立市教育振興基本計画の特徴である「未来を拓くプロジェクト」及び「ひたらしさを活かした取組」を8つの施策として位置付けて、施策の取組内容、課題及び今後の方向をまとめた施策評価調書を作成した。

(2) 外部評価

施策評価調書の各施策等について、教育行政点検評価委員の評価及び意見を得た。

4 教育行政点検評価委員（順不同、敬称略）

氏 名	所 属 等
星 秀 男	元学校長
小野瀬 静香	日立市社会教育委員
福地 秀太郎	日立市立小・中学校PTA連合顧問

5 今後の取組

点検評価委員からの意見を基に今後の事業へのフィードバックを行い、今後の施策の検討を進めて、将来を担う人材を育成するとともに、豊かな文化を育む教育行政の推進に努める。

6 点検及び評価の概要 別紙のとおり

7 報告書 別冊のとおり

令和6年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要（対象年度：令和5年度）

1 各施策に対する内部評価及び外部評価

未来を拓くプロジェクト		
施策名	取組の内容	評価【内部評価：取組の成果、外部評価：点検評価委員からの意見（各抜粋）】
① 確かな学力の育成	ア 確かな学力の育成 イ 学習指導要領による授業の実践 ウ 情報活用能力の育成 エ 英語教育の充実	内部評価 ・全小・中・義務教育学校の全学年に国語・算数・理科・英語、小学5年生以上に社会の指導者用デジタル教科書を導入した。9割の学級で週3回以上活用されるなど日常的なツールとして活用されている。児童生徒の興味・関心を高め、楽しく学習することや分かりやすい授業づくりに効果があった。 ・外国語指導助手を全校に配置し、生きた英語に触れることや異文化への理解を深める環境を整えた。各校で英語を用いてコミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力の育成に努めることができた。
		外部評価 ・ICT支援員による業務支援により、学校の負担軽減につながったことを評価したい。ICT活用実績として、9割の学級で週3回以上活用されていることなので、学校、先生方にICT教育が浸透してきているのではないかと感じている。さらなる普及を進めてほしい。 ・令和4、5年度のハワイの大学への教員派遣、福島県における宿泊英語研修、外国語指導助手の全校配置など様々な取り組みによって英語学習への興味・関心を大いに高めることができたと考えている。
② 教育環境の向上	ア 学校施設の整備 イ 通学路安全対策の推進 ウ 学校・家庭・地域との連携により子どもたちを育てる取組の推進 エ 学習環境の整備・充実 オ 教職員の働き方改革	内部評価 ・4組の統合準備委員会を開催し、円滑な統合に向けて協議を進めることができた。本庁地区の学校再編に関する保護者説明会を開催し、再編の必要性について共通理解を図ることができた。東小沢小学校と坂本小学校については、令和6年3月31日をもって閉校することから、これまで両校を支えていただいた皆様に感謝の意を伝えるため、それぞれの学校において閉校式を開催した。学校再編に伴い用途廃止となる学校の校舎や敷地等について、適正な管理と利活用を図れるよう、学校跡地活用検討委員会及び作業部会において多様な視点で検討を行うことができた。 ・「部活動の段階的な地域移行に向けた検討委員会」及び「中体連専門部と少年団との懇話会」を開催し、中学生及び少年団へのアンケート結果を基に各種目の移行の方向性について具体案を検討した。また、十王中学校区において、総合型地域スポーツクラブと連携した実証事業に取り組んだ。さらに、教職員の兼職兼業についての制度を整備した。
		外部評価 ・学校再編については、地域コミュニティから消極的な意見もあり、進めていくのが難しいというところもあると認識している。しかし、複数クラスがあり、部活動もある程度できる環境を作ることは子供たちのことを考えると必要だと思う。 ・休日の部活動地域移行については、地元少年団頼みだと厳しいと感じている、少年団の管理者や少年団のおかれた環境により、かなり温度差があるように思われる。部活動指導員、地域エキスパートの活用は評価できるが、さらなる外部人材の掘り起こしを期待する。スピード感を持って実行していくことが、子供たちの部活の質の向上、教師の負担軽減、保護者の不安解消につながると思う。
③ 放課後や休日の活動環境の充実	ア 放課後児童対策の推進 イ 子どもの地域活動への参加推進	内部評価 ・4校で新規に教室を実施し、児童クラブを開設している全ての学校、計23校で教室を実施する体制とし、子どもたちが様々な体験等を行う機会を設けることができた。 ・土曜日や夏休みを利用し、地域の団体の協力を得て、子どもたちに様々な活動機会を提供することができた。新型コロナウイルス感染症の影響で休止していた、「ひたちっ子わくわくキッチン（食育講座）」を再開し、子どもたちの食育を推進することができた。
		外部評価 ・児童クラブを開設している全ての学校が、放課後子ども教室を実施する体制となったことは素晴らしいと思う。 ・「ひたちっ子わくわくイングリッシュ・ひたちっ子わくわくキッチン」のような本市の特色ある取組によって、子どもたちの英語への興味関心や食育の推進を図れたことは素晴らしいことであり、関係各位のご尽力に対して、大いに敬意を表するものである。
④ 文化財の活用	ア 文化財の保存と活用の推進 イ 郷土博物館の魅力づくり	内部評価 ・文化財回廊コースウォーキングの実施（かんぶり穴ガイドツアー、魅力再発見ウォーク、子ども地学教室フィールドワーク、百年塾「日立を知る講座」）、「日立市文化財回廊ガイドマップ～暇修館周辺～」の発行などを行った。 ・特別展示「日立鉾山に生きた人々」において、日立鉾山の閉山を振り返る写真を鑑賞する機会を設けることができた。（観覧者数：3,445人） 市が震災を受けた6月から7月の時期にあわせ、新たに収集した震災関連写真および震災関連資料のギャラリー展を開催した。（観覧者数：1,231人）
		外部評価 ・文化財回廊コースウォーキングの実施や日立風物流収蔵施設の計画、長者山遺跡のピジターセンター整備など積極的に文化財保存、活用に向き合っていると思う。今後も文化財を広く多くの方に知っていただけるように多方面に考えていただきたい。また、インフルエンサーの活用も検討いただくとともに、各イベントの参加者や施設来場者の満足度、改善点やニーズ調査も行い、それをもとによりよい活動にしてほしい。 ・郷土博物館における令和5年度の特別展示が、昨年度に比べ倍以上の観覧者数を残せたことは大変素晴らしいことであり、ふるさと文化少年団への支援等、様々な活動を通して郷土への理解や愛着を深めることができたことは大いに評価したい。
⑤ スポーツの振興	ア 市民運動公園、スポーツ広場等施設整備の推進 イ ひたちシーサイドマラソンの開催に向けた準備 ウ スポーツ合宿の誘致推進 エ スポーツに関する情報の提供	内部評価 ・市民運動公園野球場の再整備に向けて実施設計、近隣住民説明等を実施し、再整備を推進した。 ・令和5年9月5日に実行委員会設立総会を開催し、令和6年11月17日に第1回大会を開催することを決定した。 令和6年3月25日にひたちシーサイドマラソン2024第1回実行委員会を開催し、令和6年度事業計画等の承認を得た。
		外部評価 ・施策の柱である「スポーツを通じた交流人口の拡大」については、実績値が昨年度の約2倍に達することができた。さらに「競技力の向上・スポーツ団体等の活性化」についても目標値を達成できたことは大いに評価したい。 ・フルマラソンは全国的にも人気があり、日立市の場合、バイパスを走ることができる非常に魅力的なコースだと感じている。各所連携一丸となって取り組んでいただきたいプロジェクト。マラソン、日立の食、特産品、観光、宿泊、広報と横のつながりを作っていくことが、フルマラソンという事業のパフォーマンスを高め、まちの活性化に寄与すると思う。日立の魅力を活かすに味わうことのできるイベントにしてほしい。

「ひたらしさ」を活かした取組		
施策名	取組の内容	評価【内部評価：取組の成果、外部評価：点検評価委員からの意見（各抜粋）】
⑥未来を拓く力を育む学校教育	ア 本市独自の取組による未来を拓く人づくりの推進 イ 自己肯定感・自己有用感を高める取組 ウ 教育環境の充実 エ 保護者の教育費負担軽減に関する取組 オ 学校給食の充実	内部評価 ・ディスプレイ型電子黒板をすべての普通教室に整備し、教育環境の充実を図ることができた。 ・令和5年4月から、市が提供する児童生徒分の学校給食費を無償化することで、子育て世帯の経済的な負担を軽減することができた。 ・新小学生、新中学生及び市外から転入した児童生徒にランドセル及びスクールカバンを贈呈し、保護者の経済的負担を軽減することができた。また、保護者の代表、教職員、学識経験者で組織する「新しいランドセル検討委員会」を開催した。当該委員会の意見を基に、令和7年度以降に配布するランドセルの新仕様を決定することができた。
		外部評価 ・ディスプレイ型電子黒板を普通教室に配置していただき、市に感謝する。電子黒板を有効に活用できるように、有効な活用事例の共有など教師の研修も合わせてお願いしたい。また、特別支援学級、特別教室への整備についても、合わせて進めていただきたい。 ・学校給食費の無償化は、保護者にとって大変助かる施策で感謝している。 ・ランドセル配布だけではなく、給食費無償化など子育て世帯の負担軽減はぜひ続けてもらいたい。
⑦生きがいや喜びを見出す生涯学習	ア キャリア教育の推進 イ ラジオ体操の普及推進 ウ 生涯学習機会の提供 エ 読書環境の整備・充実	内部評価 ・キャリア教育の一つとして、子どもたちが将来への夢を持ち、自立していくことを目的に活動する職業探検少年団の運営を支援することができた。また、子どもたちの職業観を育むために、団員自らが、将来の夢や少年団活動の感想などを記入する「職探ノート」を配布した。 ・電子書籍貸出サービスを導入したことにより、時間・場所を問わずに読書環境を提供できる非来館型の新たな図書館サービスを提供することができた。
		外部評価 ・職業探検少年団などの活動を通して、将来的に日立市で活動していく子どもの育成にも取り組む必要があるのではないかと。一度、市外に出た子どもにも戻りたいと思わせるキャリア教育が必要である。 ・電子書籍貸出サービスの導入によって、時間・場所を問わずに読書環境を提供できる非来館型の新たな図書館サービスを提供できたことは大いに評価できる。
⑧健康と活力を生み出すスポーツ	ア 池の川さくらアリーナの活用推進 イ 地域と連携したスポーツへの多様な参加機会の充実 ウ スポーツクラブ・団体の育成	内部評価 ・競技団体や指定管理者等と連携を図り、国内トップレベルの試合・大会、文化イベント等を誘致・開催し、市民に国内トップレベルのスポーツ等を観覧する機会を提供するとともに交流人口の拡大を図ることができた。 ・クラブの運営にかかる経費に対する支援を行い、安定したクラブ運営につなげることができた。また、各クラブと市及び日立市スポーツ協会による情報交換会を4回実施し、情報の連携と、課題等の共有を図ることができた。
		外部評価 ・Bリーグ、Vリーグの誘致は子どもたち、広く市民にプロスポーツを知ってもらうよい機会になると思う。引き続き、多様なスポーツ大会の誘致をお願いしたい。その反面、市民が使用できなくなるという事象も把握されているので、より良い運営方法を他の自治体の活用事例なども参考にしながら改善していただきたい。 ・部活動の地域移行により、個人の指導者とともにスポーツクラブや団体へのニーズがますます高まっていくことが予想され、情報や課題の共有を図っていく必要がある。その観点から、各クラブ、市、さらにスポーツ協会による情報交換会が定期的に行われることは大変意義深いものと思われる。加えて、これまで様々な部活動に従事してきた学校の部活動顧問の視点も大いに参考にさせていただきたい。

2 報告書全体に対する意見

星 秀男 委員 <元学校長>

① 市内の小中学校の授業を参観する機会があった。「ゴールから考える授業づくり」というテーマの下で、児童のレベルアップを図っていた。市内全ての学校が、自校の子どもたちの実態を踏まえた取組をしていることに敬意を表する。その一方で、教室への電子黒板の整備に関しては、今年度にすべての学校の普通教室に電子黒板の設置が完了し、より一層ICT活用の推進が図れたことは素晴らしい。

また、教員の指導力を高めるために海外大学への派遣や、他県での宿泊研修などを進める一方で、外国語指導助手の全校配置や、通訳ボランティアによる外国人児童生徒への支援等々、確かな学力を育成するために、様々な視点から取り組んでいることは大いに評価できる。

② アフターコロナに向けた取組は、例えば、放課後の子ども教室の交流、地域行事への児童生徒の参加、ひたちっ子わくわくキッチンの再開等、本市の地域性を最大限に活かした取組が進められたことは、関係者の方々に心から敬意を表する。郷土博物館で見かけた、夏の猛暑に来館を促すユーモア溢れる看板は、新しい視点からの魅力発信であると、思わず笑みが零れた。

教育とは、一人一人の子どもに寄り添ったものという大原則は変わらない。若い先生が、教師を目指した原点を常に自覚する日立市の学校であってほしいと願う。訪問した小学校で新採の教員を見守る校長先生の、「鳥肌が立つほどの感動を若い先生に経験してほしい」という言葉と愛情溢れる表情が印象的だった。

小野瀬 静香 委員 <日立市社会教育委員>

① コロナウイルス感染症が第5類に移行となり、昨年までとは変わりつつある環境の中で、教育施策を推進する「未来を拓くプロジェクト」や「「ひたちらしさ」を活かした取組」が鋭意進められているとわかった。

確かな学力の育成では、基礎・基本の定着が施策の目標となっているが、よくわかる割合が減少している。これから対面授業の長所を活かし、一人一人の理解度や特性を見極め、個に応じた指導を期待する。

② 「ひたちらしさ」を活かした取組では、ランドセル配布だけではなく、日立理科クラブ等市内の各種団体の支援、未来パスポートの配布、さらにキャリア教育でもある職業探検少年団などの活動を通して、将来日立市で活躍してくれる子どもたちの育成にも結びつくことを期待する。また、ひたち生き生き百年塾などの活用を通して、生涯学び続けられる活動拠点の充実を図ってもらいたいと同時に、特色ある事業が高齢化などを理由に消滅することのないよう継続してほしい。

価値観が多様化し、変化の激しい難しい時代において、日立市で育つ子どもたちには、日立で生活し育ってきたことに誇りをもってほしい。そのために、生活・教育・体験の格差がなく、子どもたちがのびのびと子どもらしく育ち、日本の将来を担う人材となるよう願っている。

① 教育費負担軽減に関する取組は、学校給食費の無償化は物価高の折、保護者の負担軽減に直結する良策である。ランドセルの無償配布は特筆すべき点で、次年度以降、時代に合わせた色・カタチ・機能が改善されて配布されるのは素晴らしい。

通学路の安全確保について、保護者の間でも危険と認識されている場所が多数ある。子どもたちが安心、安全に登下校ができるように早急な改善をお願いしたい。

学校再編については、難しい問題も多々あると思うが、複数のクラスがあり、部活動もある程度可能な環境は必要だと考える。子どもたちを最優先に考え再編を進めてほしい。

② 休日の部活動地域移行は、子どもたちが平日とは違うメンバー・指導者のもと学び、また平日とは別の部活を経験できるのは魅力的な仕組みである。部活動指導員、地域エキスパートの活用は評価した上で更なる外部人材の掘り起こしを期待する。

今年開催予定のフルマラソンは、各課連携して取り組んでもらいたいプロジェクトである。食・特産品・観光・宿泊・広報と連携しフルマラソン事業のパフォーマンスを高めてほしい。子供たちがボランティア等がかかわることにより事業を自分事として捉えることができ、日立市への誇りにつながると思う。

専決処分について（損害賠償の額を定めることについて）

損害賠償の額を定めることについて、特に緊急を要するため教育委員会を開催する時間的余裕がないことが明らかであったので、教育長に対する事務委任規則第 3 条第 1 項の規定に基づき別紙のとおり専決処分したから、同条第 2 項の規定に基づきこれを報告し、承認を求めるものとする。

令和 6 年 8 月 29 日提出

日 立 市 教 育 委 員 会
教 育 長 折 笠 修 平

(1) 桐生市臨海子ども会及び桐生市・日立市子ども会リーダー交歓研修会の実施結果
について

1 第 67 回桐生市臨海子ども会

(1) 実施内容

ア 趣旨

桐生市の子どもたちに海洋に親しむ機会を設け、団体行動を通じて生活指導を行い、子どもの健康増進及び健全な子ども会の発展に寄与する。

イ 主催 桐生市、桐生市子ども会育成団体連絡協議会

ウ 開催場所 河原子海水浴場

エ 宿泊施設 河原子旅館組合所属旅館（5軒）

オ 期間 令和6年7月27日（土）から29日（月）まで
（2団編成1泊2日）

カ 参加者 桐生市の小学3年生以上の子ども会会員及び育成会会員等

	平成30年度	令和元年度	令和5年度	令和6年度
第1団	265人（182人）	258人（162人）	148人（83人）	185人（103人）
第2団	297人（203人）	167人（98人）	134人（66人）	147人（79人）
計	562人（385人）	425人（260人）	282人（149人）	332人（182人）

※（ ）は参加者のうち小・中学生の人数
※ 令和2年度～令和4年度は中止

キ 活動内容 海水浴、レクリエーション等

(2) 本市の対応（歓迎式典の開催）

ア 日時及び場所 令和6年7月27日（土）午後1時から 河原子海浜公園

イ 内容

(ア) 日立市長及び日立市子ども会育成連合会会長からの歓迎あいさつ

(イ) 桐生市参加者に記念品の贈呈

(3) その他

ア 7月28日（日）には、河原子学区コミュニティが河原子小学校児童、河原子中学校生徒、河原子学区の地域住民と実施するラジオ体操と一緒に参加した。

イ 事業を安定的に継続させ、親善都市との交流を深めるため、桐生市子ども会育成団体連絡協議会に対し、実施費用の一部を助成した。



2 第52回桐生市・日立市子ども会リーダー交歓研修会

(1) 実施内容

ア 趣旨

国内親善都市である桐生市の子ども会と親善を図り、交流を深めるため。

イ 期日 令和6年8月3日（土）から4日（日）まで（1泊2日）

ウ 場所 群馬県桐生市

エ 主催 日立市子ども会育成連合会（後援 日立市、日立市教育委員会）

オ 参加者 各学区代表の子ども会リーダー、中学生リーダー会員、ヤングリーダーズクラブ及び日立市子ども会育成連合会役員など、計37人

カ 桐生市子ども会との交流内容

(ア) 歓迎式典

(イ) 八木節踊りの練習後、桐生八木節まつり「子ども大会」に参加

(ウ) 宿泊先での交流

キ 宿泊先 群馬県桐生市青少年野外活動センター

(2) その他

ア 織物参考館「紫」での藍染体験

イ 富弘美術館及び岩宿博物館を見学



以上

(2) 日立市二十歳の祝いの実施について

1 趣旨

二十歳という人生の節目を祝うとともに、人生を切り拓いていく青年たちを励ます機会とする記念式典を実施する。

2 実施日 令和7年1月12日(日)

3 会場 日立市池の川さくらアリーナ

4 対象者(約1,600人)

今年度中に20歳になる平成16年4月2日から平成17年4月1日までに生まれた方で、次のいずれかに該当するものとする。

- (1) 本市に住民登録をしている方(令和6年11月1日現在)
- (2) 進学や就職などにより、現在は市外に住所を有しているが、式典に参加を希望する方
- (3) 本市に住民登録はしていないが、市内に通勤又は通学している方

5 実施方法

会場及び周辺道路の混雑緩和を図るため、前年度同様に2部制で実施する。

区分	時間	対象校	対象者数 (参加見込数)
第1部	11時30分 ～12時30分 ※11時受付開始	・市立中学校7校(河原子、泉丘、日高、久慈、坂本、十王、中里) ・その他(日立一高附属中、茨城キリスト中、市外の中学校卒業者など)	約800人 (約650人)
第2部	14時30分 ～15時30分 ※14時受付開始	・市立中学校9校(助川、平沢、駒王、滑川、多賀、大久保、台原、豊浦、特別支援)	約800人 (約650人)

6 式典の実施体制等

(1) 実施体制

事業を推進するために、対象者による実行委員会(29人)を組織し、式典などの企画立案、運営等を行うこととする。

(2) 実施内容

ア 記念式典

イ 記念撮影

ウ アトラクション(内容は実行委員会で検討)

7 過去の参加状況

実施年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
対象者数(人)	2,108	2,050	2,032	1,994	1,808
参加者数(人)	1,603	中止	1,536	1,417	1,361
参加率(%)	76.0		75.6	71.1	75.3

以上



入四間村門前町割図

右馬允

うまのじょう

特別展示 庄屋・関右馬允が向き合った日立の600年

2024年9月21日[土]—11月4日[月・祝] *休館日：9月30日(月)、10月28日(月)
9:30—16:30(入館は16:00まで)

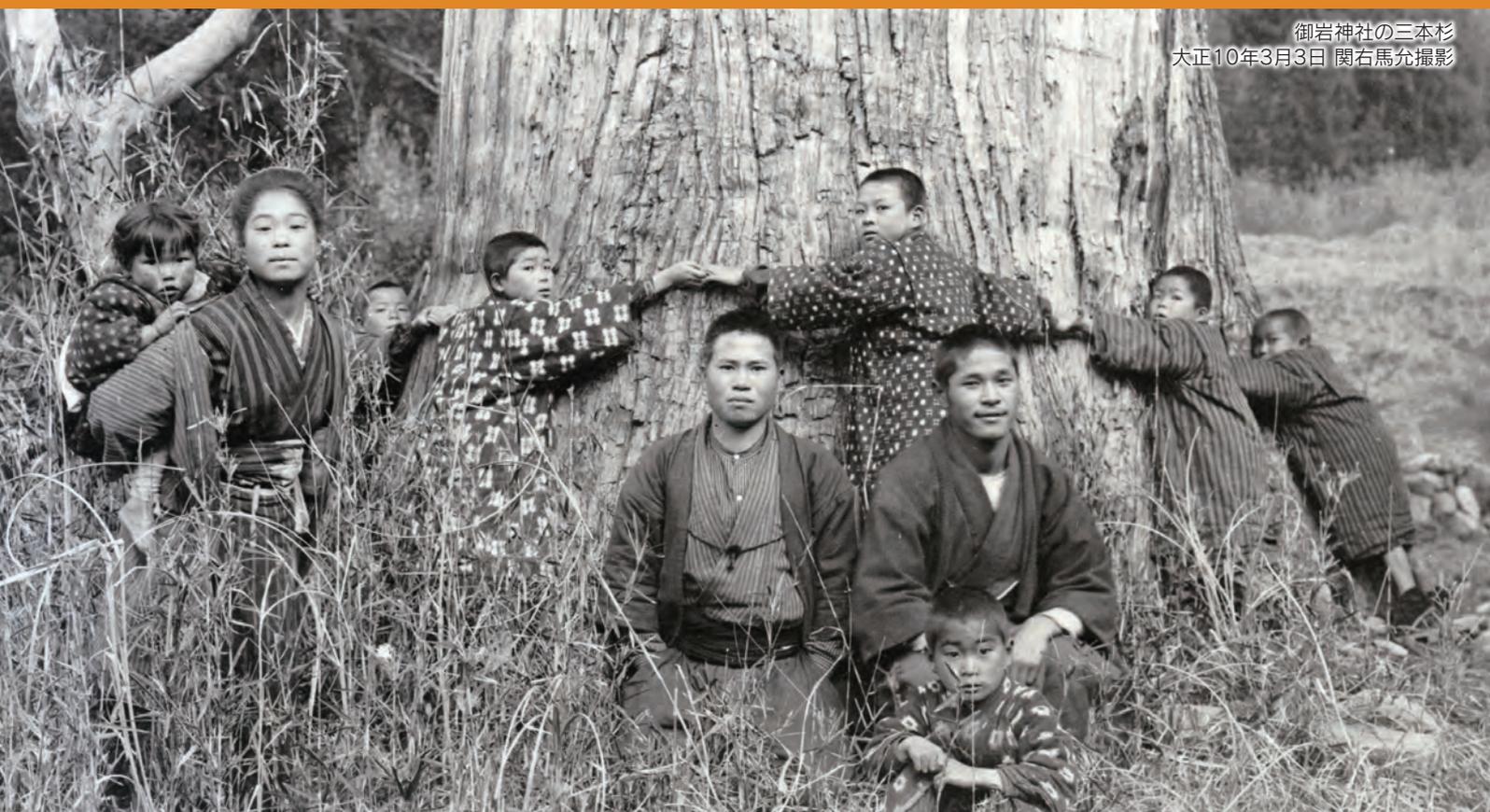
観覧料=無料

主催：日立市郷土博物館
協力：ひたち巨樹の会・日立市郷土博物館歴史資料整理ボランティア

かみね公園入口

日立市郷土博物館

〒317-0055 茨城県日立市宮田町5-2-22
Tel.0294-23-3231 Fax.0294-23-3230



御岩神社の三本杉
大正10年3月3日 関右馬允撮影

特別展示 庄屋・関右馬允が向き合った日立の600年

関家は中世武家の系譜を引き、南北朝期に奥州白河から久慈郡入四間に移りました。近世には入四間村の庄屋として指導的な役割を果たし、また、御岩神社の世話役（年寄）でもあったため、関家は藩主参詣の際の宿舎となっています。水戸藩の殖産政策にも積極的に協力し、幕末には徳川斉昭の無実を訴え藩政への復帰を願う改革派として活動し、明治2年に郷士に起用されました。

関家の当主は代々「右馬允」を襲名していますが、特筆されるのは第15代右馬允（1888～1973）です。日立鉱山の煙害問題に際して被害調査や補償交渉に奔走し、新田次郎の小説「ある町の高い煙突」で主人公のモデルとして広く知られることになった彼は、社会的・文化的活動を通じて様々な文化人、芸術家、研究者、政府や陸海軍の要人などと幅広い交流を持ちました。

また大正10年にカメラを購入した彼は、山林等の煙害の記録ばかりでなく、巨樹に関心を持って、茨城県内をくまなく探索し撮影しました。さらに家族や自らが生活した入四間の人々と暮らし、日立地方の産業や各地の風物など広範囲の被写体にレンズを向け、半世紀にわたって写真を撮り続けたのです。彼が残した5万コマに及ぶ写真はそのすべてに日付が付されおり、貴重な歴史資料となっています。

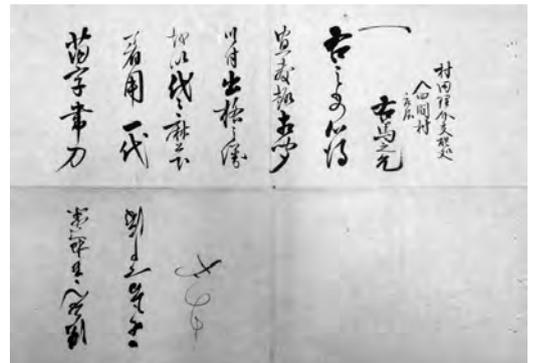
この展覧会は関家所蔵資料を中心に、中世から近現代にいたるまで約600年に渡って土豪・庄屋・郷士などとして地域で指導的な役割を果たしてきた関家の歩みと入四間および日立地方の歴史を辿りつつ、第15代右馬允の活躍とその歴史的・地域的・文化的な背景をご覧いただくというものです。



伊達政宗書状



関家念持仏



代々麻上下着用一代苗字帯刀御免



入四間村山内並全村絵図（部分）



斉昭より拝領の羽織

■関連催事

(1) 展示解説

関家所蔵の展示史料から日立地方の歴史を読み解きます。中世・近世の古文書の見方、読み方を初心者向けに平易に解説し、講座終了後に展示解説を行います。

- ア 「伊達政宗書状」と佐竹氏・伊達氏
日時：9月29日(日) 午前10時～11時30分
- イ 「徳川斉昭書状」と斉昭の日立地方巡村
日時：10月13日(日) 午前10時～11時30分

講師：当館研究員

会場：日立市郷土博物館集会室・特別展示室

受講料：各50円（資料代）

定員：各先着20人

(2) 講座「関右馬允が撮った巨樹写真とその後」

関右馬允は『茨城県巨樹老木誌』において302点の巨樹の写真を残しています。これらの写真には、巨樹の脇に立つ持ち主や関係者、時には撮影者である右馬允自身が写っているものもあります。右馬允が撮影した巨樹写真と、後年の写真を対比し、右馬允が記した由緒などを紹介します。

日時：10月6日(日) 午前10時～11時00分

講師：宇梶秀夫さん（ひたち巨樹の会）

会場：日立市郷土博物館集会室

受講料：50円（資料代）

定員：先着30人

【参加申込み】(1)(2)とも9月13日(金) 午前9時から郷土博物館で電話受付

かみね公園入口

日立市郷土博物館

〒317-0055 茨城県日立市宮田町5-2-22
Tel.0294-23-3231 Fax.0294-23-3230

交通

JR常磐線日立駅中央口よりバスに乗り、「かみね公園口」下車。徒歩1分。
常磐自動車道日立中央I.C.から10分。

博物館脇に6台分程の駐車場がございますが、満車の場合はかみね公園駐車場をご利用ください。

